

新人看護職員 キャリアパス(急性期)

* カルテの記載は、教育担当師長が新人看護師全員の免許証登録を確認後、開始とする。
* ローターション研修後、1週間は日勤とし、その後夜勤再開する。

平成30年5月改訂
令和5年4月改訂
令和6年3月改定
令和7年3月改定

		年度			部署			氏名							
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
到達時期		1ヶ月後	3ヶ月後			6ヶ月後			12ヶ月後						
新人看護職員研修到達	看護職員としての自覚と責任ある行動	看護職員としての自覚と責任ある行動 □①医療倫理・看護倫理に基づき、人間の生命・尊厳を尊重し患者の人格を擁護する。 □③職業人としての自覚を持ち、倫理に基づいて行動する 患者の理解と患者・家族との良好な人間関係の確立 □②患者を一個人として尊重し、受容的・共感的態度で接する □③職業人としての自覚を持ち、倫理に基づいて行動する □⑤守秘義務を厳守し、プライバシーに配慮する □⑥看護は患者中心のサービスであることを認識し、患者・家族に接する 組織における役割・心構えの理解と適切な行動 □①病院及び看護部の理念を理解し行動する □②病院及び看護部の組織と機能について理解する □⑥看護は患者中心のサービスであることを認識し、患者・家族に接する 生涯にわたる主体的な自己学習の継続			看護職員としての自覚と責任ある行動 □②看護行為によって患者の生命を脅かす危険性もあることを認識し行動する 患者の理解と患者・家族との良好な人間関係の確立 □①患者のニーズを身体・心理・社会的側面から把握する □③患者・家族にわかりやすい説明を行い、同意を得る 組織における役割・心構えの理解と適切な行動 □④同僚や他の医療従事者と適切なコミュニケーションをとる 生涯にわたる主体的な自己学習の継続 □②課題の解決に向けて必要な情報を収集し解決に向けて行動する			患者の理解と患者・家族との良好な人間関係の確立 □④家族の意向を把握し、家族にしか担えない役割を判断し支援する 組織における役割・心構えの理解と適切な行動 □③患者・家族にわかりやすい説明を行い、同意を得る 生涯にわたる主体的な自己学習の継続 □③学習の成果を自らの看護実践に活用する							
	看護技術	環境調整技術 □①温度、湿度、換気、採光、臭気、騒音、病室整備の療養生活環境調整 □②ベッドメイキング 活動・休息援助技術 □④入眠・睡眠への援助 症状・生体機能管理技術 □①バイタルサイン（呼吸・脈拍・体温・血圧）の観察と解釈 □②身体計測 感染予防技術 □①スタンダードプリコーション（標準予防策）の実施 □②必要な防護用具（手袋、ゴーグル、ガウン等）の選択 □④医療廃棄物規定に沿った適切な取扱い 安全確保の技術 □②患者誤認防止策の実施			食事援助技術 □①食生活支援 □②食事介助 □③経管栄養法 排泄援助技術 □①自然排尿・排便援助 □②導尿 □③膀胱内留置カテーテルの挿入と管理 □④洗眼 □⑤摘便 活動・休息援助技術 □①歩行介助・移動の介助・移送 □②体位変換 □③廃用症候群予防・関節可動域訓練 □⑤体動、移動に注意が必要な患者への援助 清潔・衣生活援助技術 □①清拭 □②洗髪 □③口腔ケア □⑤部分浴・陰部ケア・おむつ交換 □⑥寝衣交換等の衣生活支援、整容 呼吸・循環 □④体温調整を整える技術 苦痛の緩和・安楽確保の技術 □①安楽な体位の保持 救命救急処置技術 □⑦チームメンバーへの応援要請 症状・生体機能管理技術 □③静脈血採血と検体の取扱い □④動脈血採血の準備と検体の取扱い □⑤採尿・尿検査の方法と検体の取扱い □⑥血糖値測定と検体の取扱い □⑧パルスオキシメーターによる測定 症状・生体機能管理技術 □⑦心電図モニター・12誘導心電図の装着、管理 感染予防技術 □⑤針刺し切創、粘膜暴露等による職業感染防止対策と事故後の対応			清潔・衣生活援助技術 □④入浴介助 呼吸・循環を整える技術 □①酸素吸入療法 ②吸引（口腔内、鼻腔内、気管内） □③ネブライザーの実施 □⑤体位ドレナージ □⑥人工呼吸器の管理 創傷管理技術 □②褥瘡の予防 □③包帯法 与薬の技術 □①経口薬の与薬、外用薬の与薬、直腸内与薬 □②皮下注射、筋肉内注射、皮内注射 □③静脈内注射、点滴静脈内注射 □④中心静脈内注射の準備・介助・管理 □⑤輸液ポンプ・シリンジポンプの準備と管理 □⑥輸血の準備、輸血中と輸血後の観察 □⑦抗菌薬、抗ウイルス薬等の用法の理解と副作用の観察 □⑧インシュリン製剤の種類・用法の理解と副作用の観察 □⑨麻薬の種類・用法の理解と主作用・副作用の観察 □⑩薬剤等の管理（毒薬・劇薬・麻薬、血液製剤を含む） 救命救急処置技術 □①意識レベルの把握 □②気道確保 □③人工呼吸 □④閉鎖式心臓マッサージ □⑤気管挿管の準備と介助 □⑥外傷性の止血 苦痛の緩和・安楽確保の技術 □②電法等身体安楽促進ケア □③リラクゼーション技法 □④精神的安寧を保つための看護ケア 感染予防技術 □③無菌操作の実施 死亡時のケアに関する技術 □①死後のケア							
	看護実践における管理的側面	情報管理 □①施設内の医療情報に関する規定を理解する □③プライバシーを保護して医療情報や記録物を取り扱う □③業務上の報告・連絡・相談を適切に行う 業務管理 □①業務の基準・手順に沿って実施する			安全管理 □①施設における医療安全管理体制について理解する □②インシデント（ヒヤリ・ハット）事例や事故事例の報告を速やかに行う 情報管理 □④看護記録の目的を理解し、看護記録を正確に作成する 業務管理 □④決められた業務を時間内に実施できるように調整する 災害・防災管理 □②施設内の消火設備の位置と避難ルートを把握し患者に説明する 物品管理 □①規定に沿って適切に医療機器、器具を取り扱う □⑦看護用品・衛生材料の整備・点検を行う			情報管理 □②患者等に対し、適切な情報提供を行う 業務管理 □②複数の患者の看護ケアの優先度を考えて行動する 薬剤等の管理 □①薬剤を適切に請求・受領・保管する（含、毒薬・劇薬・麻薬） □②血液製剤を適切に請求・受領・保管する 災害・防災管理 □①定期的な防災訓練に参加し、災害発生時（地震・火災・水害・停電等）には決められた初期行動を円滑に実施する コスト管理 □①患者の負担を考慮し、物品を適切に使用する。 □②費用対効果を考慮して衛生材料の物品を適切に選択							
集合研修	裏面へ	□目標管理 □救急看護 □看護技術 □人工呼吸管理 □終末期ケア	ローテーション研修（スケジュールは別紙）			□摂食嚥下② □薬品の取り扱い □ストーマケア②	技術習得支援調整					□修了式			
部署内教育	プリセプター会議	プリセプター・プリセプティ会議		プリセプター会議	プリセプター・プリセプティ会議		ケーススタディの取り組み（期日に提出）					プリセプター・プリセプティ会議			
受け持ち患者		プリセプターの受け持ち患者を一人、副受け持ち看護師として受け持ち、			プリセプターフォローのもと、1名の患者を受け持ち、看護課程の展開を習得する。										
経過記録	入ロベカグアイナンス面	の 後 免 ル ロ、新 テ グ 新 記 イ 登 載 ン 看 可 護 カ 師 認	ベアナースが支援する（経過表はダブルサインする）			10月～（フォローナースが支援する）									
	トチエ記基ツ薬づくいた	ベアナース	ベアナースとダブルチェックする。			自立に向けて支援する。									
	患者数		2～4名	3～5名	4～6名	5～7名	5～7名	5～7名	5～7名	6～8名	6～8名	6～8名			
	患者選択		▼軽症患者・及び課題（点滴管理など）を明確にして意図的に選択する。 ▼部署の状況に応じて、手術や検査、処置などの比重を増やす、もしくは人数を増やす ▼重症患者は、一人で担当しない。												
入浴介助			必ず看護師と2名で実施する。			自立に向けて支援する。									
	夜勤	トチエ記基ツ薬づくいた	中旬からシャドウ	2回目からはベアで受け持つ。			自立に向けてフォローナースが支援する。								
				●多重課題・優先を考えて行動ができる ●基準・手順に基づいた行動ができる ●観察・報告・連絡・相談ができる ●指導のもと患者の安全を確保する											
				ベアナースとダブルチェックする。			自立に向けて支援する。（日勤の自立状況を参考にする）								
患者数		0名	2～4名	5～10名			10～15名			チームの患者					
患者選択		▼軽症患者・及び課題（点滴管理など）を明確にして意図的に選択する。 ▼部署の状況に応じて、手術や検査、処置などの比重を増やす、もしくは人数を増やす ▼重症患者は、一人で担当しない。													
その他	早出	夜勤のイメージ化のため実施する	ベアナースが指導												
	遅出	夜勤のイメージ化のため1回実施する	夜勤者のフォローのもと実施												
	NA業務	日常業務の流れを理解する	NAと一緒に												

※「自立に向けて支援する」とは、「技術チェックリストで全て○になった場合、1人で実施してよいが、総合的アセスメントができるまでは支援する」ことである